第3学年3組　国語科学習指導案

１　**単元名・教材名**　音訓かるた

２　**本時の学習指導**　（本時１／２）

　（１）目標

　　　○カンジ―はかせの「音訓かるた」を読んで、漢字を読んだり書いたりすることが出来る。

　（２）展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **学習活動** | **学習内容** | **指導と評価の創意工夫** | **時間** |
| １　本時の学習課題を理解する。  ２　音読みと訓読みを区別して、教科書Ｐ９４の歌を読む。  ＜予想される児童の反応＞  ・音と訓の違いをだいたい理解している。  ３　読んだ歌を紙に書いてかるたを作成する。  ４　歌の中で線の引いてある漢字については振り仮名を書く。  ５　それぞれの漢字の読み仮名を確認する。  ６　班で作成したかるたを用いて遊ぶ。  ○三年生までに配当されている漢字を読んだり書いたりしている。  　→読んだ歌の漢字をかるたに書き、その漢字の振り仮名を書いている。【言語活動】  ○正しい音訓や送り仮名で文を作っている。  →振り仮名を振った漢字の音と訓をしっかりと区別できている【言語活動】  （机間指導による考察）（かるたによる考察）  このような姿が見られれば、「おおむね満足できる状態である」と判断できる。  ７　本時のまとめをする。 | ・本時の学習課題  音と訓に気をつけて漢字を読んだり書いたりしよう。  ・音読みと訓読みの区別をして読むこと  ・新出漢字を使って書くこと  ・音読みと訓読みの振り仮名を振ること  ・音読みと訓読みの確認  ・音読みと訓読みのかるた  ・本時のまとめ | ○同じ漢字を含む熟語を並べ、音読みと訓読みで読み方が異なることを確認させる。  ○音読みと訓読みの区別をうまくできない児童に対しては、三年上巻「漢字の音と訓」で学習したことを想起させる。  ○班を作成し、班の中で誰がどの歌を紙に記入するか決める。  ○音読みについてはカタカナで、訓読みについてはひらがなで振り仮名をふり、区別を意識させる。  ○読み方が分からない児童に対しては教科書Ｐ９５、Ｐ１４８を参照するよう指導する。  ○机間指導を行い、児童の進度を把握する。  ○どちらが訓読みでどちらが音読みなのか、はっきり区別させながら発表させる。  ○作成した読み札に対応した絵札を配る。そして教員が読み札を読んで、児童が絵札を取る。  ○かるたで遊ばせ、音と訓に対して、親しみを持ってもらい、次時への意欲を湧かせる。  ○とった絵札に対応する読み札をノートに貼り付けさせる。  ○本時の振り返りを行い、次時の予告を行う。 | ５  ７  ７  ７  ５  １０  ３ |

３　板書計画

音と訓に気をつけて漢字を読んだり書いたりしよう。

め

音読み→カタカナ

訓読み→ひらがな

千　音　セン

　　訓　ち

羊　音　ヨウ

　　訓　ひつじ

勝　音　ショウ

　　訓　か-つ

等　音　トウ

　　訓　ひと-しい

速　音　ソク

　　訓　はや-い